

# 府中市の歌

村野 四郎 作詞

平井康三郎 作曲

大いなる文化の華は

いや古き地にこそひらけ。

ああ みどりなす武蔵野の

多摩のながれに澄む光や

けやきの梢ゆく雲に

いまぞ明けゆく世紀のすがた。

おお さわやかに ゆたかに進む

建設のひびき。

うつくしき夢は はばたく

ああ 府中

新しきわれらのふるさと。

## 歌詞の意味

大昔からの長い歴史がある土地だからこそ、素晴らしい市民文化が生まれて花開くのです。

自然豊かな武蔵野のみどりよ、多摩川の川面のきらきらとした光よ、けやきの樹上を流れる雲よ、ありとあらゆるものから、いままさに新しい時代の到来が感じられます。

さわやかに、そして確実に、まちとしての建設は着々と進んでいます。私たちの美しい夢が まさにいま羽ばたこうとしているのです。

ああ、この府中こそが新しい私たちのふるさとなのです。